

『草津未来SDGs Awards』 募集テーマ

以下のテーマから選択し、応募すること。

番号	テーマ	関係団体	掲載P
①	矢倉サンヤレ踊りの認知度向上	矢倉学区 未来のまち協議会	2
②	若者の地域まちづくりへの参加促進	老上学区/老上西学区 まちづくり協議会	3
③	矢橋帰帆島を中心とした地域の活性化にむけて	老上西学区 まちづくり協議会	4
④	野路いもを使った商品の開発	遺跡と荻の育む玉川 まちづくり推進会議	5
⑤	若者・次世代に繋ぐ 南草津駅周辺の未来構想	遺跡と荻の育む玉川 まちづくり推進会議	6
⑥	全世代に行き届くホームページ	南笠東学区 まちづくり協議会	7
⑦	若い世代からの参加が見込まれる食まつり	山田学区 まちづくり協議会	8
⑧	若者の投票率向上につながる啓発方法	市：総務課	9
⑨	脱炭素社会に繋がる地産地消を行うための仕組み	市：温暖化対策室	10
⑩	「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」を盛り上げるための草津市独自の取組	市：国スポ・障スポ 推進室	11

テーマ内容に関する問い合わせは
下記までメールにて
お問い合わせください。

草津市 総合政策部草津未来研究所
[kusatumirai@city.kusatsu.lg.jp](mailto:kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp)
 (各テーマ関係団体まで当研究所より
連絡させていただきます。)



<テーマ①> 矢倉サンヤレ踊りの認知度向上

【矢倉学区未来のまち協議会】

矢倉学区には、ユネスコ無形文化遺産に登録された風流おどり「近江湖南のサンヤレ踊り」の一つ「矢倉サンヤレ踊り」があります。矢倉若宮八幡宮を古墳時代より守ってきた住民である矢倉居住組(やぐらいじゅうぐみ)により代々継承されてきましたが、近年仲間の減少により、今後の文化継承について見直しを迫られています。

国内だけでなく世界においても継承されるべき文化として存在する「サンヤレ踊り」を、地域の大切な文化として、将来に向けて継承していきたいと考え、小学校での学習やふれあいまつりでの披露等を行っています。新しい住民の方々や若い世代においては、その存在を知らない人が多い状況です。

「矢倉サンヤレ踊り」を学区内に住んでいる子育て世代の方に認知していただき、伝統的で重要な文化遺産であると知っていただくための方法の提案をお願いします。



■ 矢倉のサンヤレ踊り

若宮八幡宮・立木神社中心に行われ、3歳から70代の人々が参加しています。衣装は、子どもが鮮やかな花笠と衣装、大人は かみしも 袴 を着ます。

※矢倉のサンヤレ踊りは2年に1度行われます。

(出所)草津市 HP より

草津のサンヤレ踊り PR 動画<参考 URL>

<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/bunka/rekishi/sanyare2022.html>

<テーマ②>若者の地域まちづくりへの参加促進

【老上学区まちづくり協議会/老上西学区まちづくり協議会】

少子高齢化が進み、共働き世帯の増加や核家族化の進行など世帯構造が変化する中で、町内会、各種団体、およびまちづくり協議会などの役員の担い手不足や、地域活動に関心を持たない、関心があってもいそがしくて参加できないなど、地域のつながりが希薄化するという問題が生じています。

そのような中、ここ数年の間に転居されてきた若い世帯が、地域に愛着を持っていただき、住み続けたいと思っただけのよう、事業展開をする必要があると感じていますが、若い世代の地域まちづくりへの関心が低く、このままでは地域コミュニティ(町内会/自治会、まちづくり協議会)の存続が危ぶまれている状況です。

若い世代の地域参加を促すために、地域情報誌や学区 LINE 等での情報発信や、子どもが参加できるイベントの開催等を行っていますが、イベントで実施したアンケートでは、「イベントへは参加したいが、イベントの運営・企画への参加は難しい」といった方が多くおられました。

若者世代に地域のまちづくりに興味を持っていただき、今後を担っていく方として地域コミュニティへ参加していただくための有効な手段について提案をお願いします。



【ハロウィンイベントの様子(老上)】



【地域の餅つき(老上)】

<テーマ③> 矢橋帰帆島を中心とした地域の活性化にむけて

【老上西学区まちづくり協議会】

老上西学区には、年間約 50 万人が訪れる矢橋帰帆島公園があり、帰帆島と学区に挟まれた中間水路が流れています。また、大型商業施設の「イオンモール草津」や大規模な医療機関「淡海医療センター」などが立地しています。

こうした多くの人が集まる施設や資源を有効に活用し、新たな産業の創造や市内外の観光客などを集めることで、地域の活性化が図れると考えており、現在、草津市版地域再生計画に則り、学区として『みんなが繋がるウォータータウン』～帰帆島及び中間水路を地域の資源とした新たな水辺の暮らし～の検討を進めているところです。

については、①中間水路の環境保全(水質改善)や環境美化の方法 ②南草津駅～矢橋帰帆島の新たな移動手段 のいずれかについて、提案をお願いします。

<参考 URL> <https://oinishi-kusatsu.jp/>



(出所)参考 URL HP より

<テーマ④> 野路いも[※]を使った商品の開発

【遺跡と荻の育む玉川まちづくり推進会議】

草津市内には、アオバナ・山田大根・草津メロンといったように、さまざまな特産品があり、それらを使用した多くの商品が作られています。玉川学区では伝統産物である「野路いも」を使った商品の開発を検討しています。

現在は、焼き芋やスイートポテトに留まっていることから、地域のまちおこしや活性化につながっていき、後に地域のブランド品となるような「野路いも」の商品[※]の提案をお願いします。



※野路いもとは・・・

野路で獲れるサツマイモのこと。

野路の土は決してサツマイモの栽培に適しているわけではなく、昔から赤土と呼ばれる粘土質の重い土でした。植物の成長にとっては厳しい環境である赤土で育つ野路いもは、固い土の中で芽を伸ばしていくことから、じっくりと甘味を蓄えており、滋味深い味わいがあります。

(出所)コミュニティくさつ 2017. NOV 115 号より



※ここでいう「商品」とは・・・

「製品」の「製」は「物品をつくること」という意味

で、食品では研究所や工場に素材に手を加えて加工品にした状態のものが「製品」。

「商品」の「商」は「売り買いで利益を得ること」という意味があり、製品をお客様に買ってもらえるようにパッケージ、ネーミング、キャッチコピーなどの工夫して店頭に並んだものが「商品」。

<テーマ⑤> 若者・次世代に繋ぐ南草津駅周辺の未来構想

【遺跡と荻の育む玉川まちづくり推進会議】

今年、JR 南草津駅の開業と立命館大学 BKC の開設30年という節目の年です。

南草津駅周辺が整備される以前は、大きな池と農地が広がっていましたが、この30余年で目覚ましい発展を成し遂げてきました。その一方で、駅を中心とした朝夕の渋滞問題を始めとした交通環境の改善が重要な課題であり、行政・地域でその対応に取り組んでいます。

そのような中で、草津市に通学、在住する立命館大学の学生の皆さんからは南草津駅前の夢を追求した提案を個々に聞くことがあります。

課題解決の為の緊急方策も重要ですが、立命館大学で未来を見据えたまちづくりを学ぶ学生の皆さんから「渋滞緩和策やバス待ち環境の改善」、「まち環境」、「魅力やにぎわい(住みやすさ)の創出」を視点として、街の玄関口である駅前の未来を見据えた構想の提案をお願いします。



昭和60年頃の南草津



現在の南草津

<テーマ⑥> 全世代に行き届くホームページ

【南笠東学区まちづくり協議会】

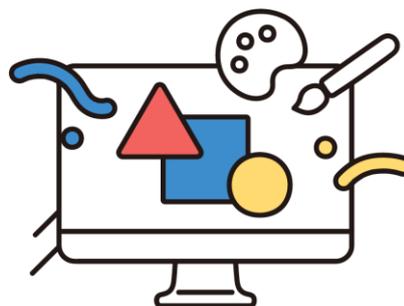
まちづくりセンターを拠点に、多くの方に活動をしていただき地域を元気にしていきたいと思い、学区の情報発信方法として、地域情報誌・ホームページ・チラシを作成し発信していますが、現在、全世代の方に興味を持って見ていただくことが難しい状況です。

特に、ホームページにおいて、「若い世代の方がアクセスしやすく興味がもてる」、「高齢者でもアクセスしやすい」ホームページの改良を検討していますが、どのように改良を行うのが有効なのか分からず、現在模索しています。

今後も、地域の情報を幅広く発信していくために、全世代に興味を持っていただけるようなホームページの改良方法の提案をお願いします。

なお、下記の点を考慮してください。

- 掲載する情報は主に『イベントや講座の開催情報』
- 若い世代や高齢者など、全世代がアクセスしやすいこと
- イベントに参加したいと思えるような構成
- 市民からのニーズを聞き取れるような仕組みの搭載
- 維持管理・運営がしやすいこと



<参考 URL> <http://minamigasahigashi.jp/>

南笠東学区公式サイト

ホーム 学区紹介 まちづくり情報 団体紹介 まちづくりセンター
Home Regional referral Reference room Group introduction Citizen center

南笠東学区まちづくり協議会

花いっぱい運動

お知らせ

新着記事

<テーマ⑦>若い世代からの参加が見込まれる食まつり

【山田学区まちづくり協議会】

山田学区には西日本最大級のビニールハウス群があり、3年前から開催しているメロンまつりは、来客数の半数が学区外の方となっている等、人気を集めています。

そこで、山田学区のふれあいまつりについても、地元農産物を活用した、山田らしい『食』をテーマとした食まつりにスライドしていきたいと考えています。

現在、学区の公式LINE等でも広報を行っていますが、今よりもさらに多くの若い世代に来ていただくために、山田学区の地元農産物を活用した新たな食まつりの提案をお願いします。なお、令和6年度は地元で収穫された農産物を活用した「(仮)秋の収穫祭」を計画中です。

山田学区の農業は、近畿最大級のハウス団地による軟弱野菜の栽培が盛んで、水菜、大根、ネギなどは県内でも主力の生産地となっています。京都などの大都市との近接性を活かし、古くから京漬物を代表する壬生菜、日野菜、大根、かぶらなどの多くも、草津産の野菜で支えてきた歴史があります。……近年では、「草津メロン」や「愛彩菜」、「琵琶湖元気アスパラ」などが、草津ブランドとして認証されています。



北山田の近畿最大級のハウス団地

(出所)草津市版地域再生計画:山田学区まちづくりプラン(令和2年3月)より



水菜



さつまいも



愛彩菜



ねずみ大根

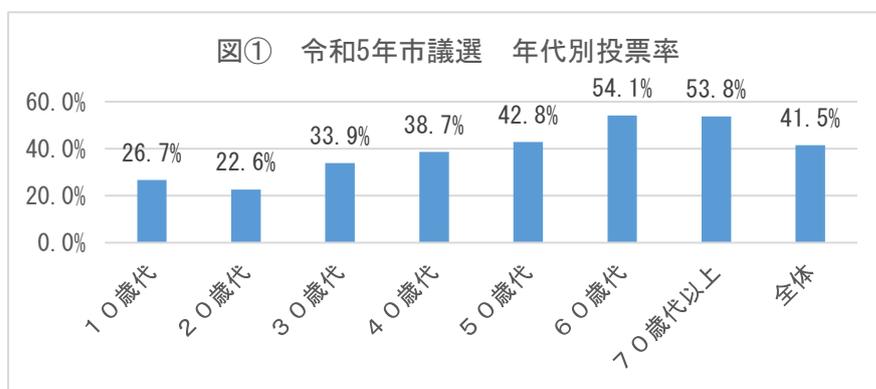
<テーマ⑧> 若者の投票率向上につながる啓発方法

【市：総務課】

日本では、平成 27 年 6 月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、平成 28 年 6 月 19 日に施行され、選挙権年齢が満 20 歳以上から満 18 歳以上に引き下げられました。

本市において、近年、選挙の投票率は低下傾向にあり、令和 5 年に行われた選挙(市議選)の投票率は、全体で41.5%(投票数/有権者数)となっていました。10代～40代の投票率は全体より下回っている結果となりました(図①)。

投票率の向上に向け市公式 SNS(Facebook、X、LINE)の利用や、Yahoo!Japan・Google、コンビニレジへの広告掲載といった啓発※を行っています。草津市内の10代・20代の若者の投票率を向上させるために、効果的な啓発方法の提案をお願いします。



※現在行っている啓発方法・・・

○まちなかでの啓発

市役所や駅などへの横断幕・懸垂幕の設置、駅構内やイオンでのデジタルサイネージ、駅前での投票の呼びかけ、商業施設での館内放送、期日前投票所施設内への看板の設置・ポスターの貼り付け、ウェットティッシュの配布、紙風船の配布(投票所)

○広く市民に向けた啓発

入場券の配布、選挙公報の帯封筒の作成、広報くさつへの掲載、ホームページへの掲載、広報車による投票の呼びかけ、えふえむ草津ラジオでの周知、QRコードの活用(候補者情報などにリンクするQRコード)

○若年層に向けた啓発

市公式 Facebook への投稿、X(旧: Twitter)への投稿、Yahoo!Japan・Google 広告、コンビニレジ POS(ローソン、ファミマ)、えふえむくさつによる啓発スポットCM、大学生インターシップの受け入れ、市公式 LINE のプッシュ通知、立命館大学での啓発(看板や横断幕の設置)、まめバス内に周知ポスター貼り付け

○その他(過去行ったことのある啓発)

折紙配布(保育園)、めいすいくん(選挙のマスコットキャラクター)と保育所訪問、大学生による選挙啓発ポスターのデザイン制作、市内公共施設での館内放送、コロナワクチン接種会場での啓発、イオンモール草津と連名でのニュースリリース(期日前投票所の設置について)、立命館大学大学生との連携による啓発(学生ボランティアとよる大学構内での投票呼びかけ)

<テーマ⑨> 脱炭素社会に繋がる地産地消を行うための仕組み

現在、日本では年間で 12 億トンを超える温室効果ガスを排出しており、2050 年までに、これを実質ゼロにする必要があります。2050 年カーボンニュートラルの実現、また、2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指し、さらに、50%の高みに向け挑戦し続けるために、草津市においても、脱炭素社会(ゼロカーボンシティくさつ)の実現を目指しています。

そこで注目しているのが『地産地消』[※]です。食べ物やエネルギー等、さまざまな地産地消を行うことで、脱炭素社会を目指していきたいと考えています。

草津市内全域をフィールドとして、脱炭素社会実現に繋がる新しい地産地消の仕組みの提案をお願いします。

【市:温暖化対策室】



※地産地消とは・・・

地域で生産されたものをその地域で消費すること。

カーボンニュートラルをめざす今の日本においては、例えば、地域で生産された野菜などを地域の学校給食等で消費し、残渣を堆肥化して再び農業に使うことにより、安全・安心な野菜づくりを行うこと、さらには、地域住民の健康づくりや地域ブランドの強化、野菜の輸送に伴う CO2 排出の抑制や、堆肥化による CO2 貯留に繋がることで、脱炭素社会実現に貢献することが期待されています。

また、エネルギーに関しても、太陽光発電など地域でつくられた再生可能エネルギー電力を地域で使うことにより、エネルギーの自給自足による脱炭素社会の実現や地域レジリエンス（災害時などの自立的な電源確保）の強化に繋がることが期待されています。

※上記のヒントを参考に、具体的な仕組の提案をお願いいたします。

<テーマ⑩>「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」を盛り上げるための

草津市独自の取組

【市：国スポ・障スポ推進室】

2025年(令和7年)に開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」は、「びわこ国体」から4年ぶりに滋賀県で開催される、国内最大級のスポーツ大会です。草津市においても多くの競技を開催し、全国から多くの来草者を迎える貴重な機会となります。

この大会を盛り上げるために、現在、草津市では国スポ・障スポの装飾やInstagram等によるSNSアカウントの広報活動など、様々な取組をおこなっております(参考URL：<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/bunka/sports/zenkokusports/index.html>)。今後、デジタルサイネージでの情報発信やカウンタダウンドボードの設置などの取組も予定しておりますが、さらに大会を盛り上げていくための草津市独自の取組として、MLGs※の「ゴール9：生業・産業に地域の資源を活かそう」に沿った提案をお願いします。



わたSHIGA輝く

国スポ・障スポ

水泳/バレーボール/バスケットボール/軟式野球/ソフトボール
バウンドテニス/ノルディックウォーク/インディアカ/スポーツウエルネス吹矢

2025年 草津市開催

国スポ 9月28日▶10月8日
水泳競技 (全期開催) 9月6日▶9月15日
障スポ 10月25日▶10月27日



広報活動



KUSATSU2025



市民活動



競技会場



結団壮行式

※MLGsとは・・・<参考URL：<https://mlgs.shiga.jp/mlgs>>

マザーレイクゴールズ (Mother Lake Goals, MLGs) は、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標(ゴール)です。

MLGsは、琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口として独自に13のゴールを設定しています。

滋賀県では「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポMLGs宣言」を行い、スポーツの楽しさや感動を分かち合うとともに、エネルギー使用量の削減などの環境配慮を県民や企業、両大会に関わるすべての参加者が実践することで、「人と人、人と地域、人と自然」の繋がりが深まり、一人ひとりの幸せがより高まることを、両大会の「レガシー」のひとつとしています。

2030年の琵琶湖と琵琶湖に接する暮らしに向けた13のゴール

